令和８年度小松市立荒屋学校　学校評価２

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
生徒指導・教育相談	〈生徒指導の４つの視点を生かした学校づくりを通して、「自己指導能力」を育む〉 ・生活目標と道徳、特別活動等で系統的な指導をする。 ・生徒指導の4つの視点を教職員が共通理解、共通実践を行えるよう、チェック表で毎月ふり返る。 ・毎月の重点項目も平均４以上（５段階）になるよう、意識できるよう伝達する。 ・生活目標や道徳で学んだ価値のよさを実感できるようにするために、諸問題が起きた時に、生活目標に関連させて指導するようにする。	・生徒指導の4つの視点の振り返りでは，「多様な考えや意見が尊重される風土づくりに努める．（悩みや困りごとを相談でき，環境づくりや信頼関係づくり等）」では、3.8の結果だった。これは、新年度ということもあり、4つの視点を強く意識し各々が厳しく評価した結果と考えられる。また、４以上の項目は「他者の多様な考えを受け止めながら聴き、どうしてそう思ったか関心が持てるように働きかける。」だった。授業中や休み時間等での児童を見ていても、教師はしっかりと見取りと価値づけを全職員で共通実践できていると、辻SSWからも評価頂いている。今後も重点項目を定め、全職員で共通実践を図っていきたい。	
特別支援教育	＜児童の生活の様子や学習状況等の情報交換と個に応じた適切な支援＞ ・気づき票により支援が必要な児童を把握し、校内委員会を学期に１回行い、支援の仕方を協議し、共通理解をする。 ・学習支援が必要な児童を把握し、特別支援教育支援員や通級教室と協力し、可能な限り必要な支援が行き届くようにする。 ・情報交流を密にし、必要な場合は校内委員会を開催したり専門相談につなげたりする。	・気になる児童については気づき票を活用して実態把握に努め、校内委員会において支援方針や対応策を協議し、共通理解を図った。また、通級指導教室との連携や専門相談員による授業参観・助言を通して、児童理解や支援方法の充実に努めた。 ・さらに、支援員の配置について協議し、支援が必要な児童に対して適切な場面で支援を行えるよう調整した。支援員の人数が限られているため、支援を必要とするすべての場面に十分対応できていない。今後も効果的な支援体制の工夫と関係機関との連携強化が必要である。	
道徳教育	＜道徳性の涵養＞ ・学校重点指導内容をA主として自分自身に関すること「希望と勇気、努力と強い意志」に設定する。日常的に学校生活の様々な場面でも取り上げて指導する。 ・道徳ノートを年５回持ち帰り、保護者と児童が道徳の内容について共に考える機会を設定する。	・行事はもちろん、日常生活の場面で、全職員が共通理解のもと子どもたちへの主体的な行動や成長を認め、褒め、次への意欲に繋げることができた。 ・道徳だより（教員用）を発行し、子どもたちのよい姿を価値づける共通意識をもつことにつなげることができた。 ・道徳ノートを持ち帰り（５月、７月）、保護者の方と児童が道徳の時間に学んだことを家庭で話す機会を設定することができた。また。保護者用の道徳だよりも発行し、各家庭での話しあった内容をお知らせすることができた。	
読書教育	＜読書の質的な向上＞ ・図書利用計画を毎月回覧し，授業での活用を呼び掛け，読書の質や量の向上を図る。一人１２冊（一か月）の貸し出しを目指す。 ・どの分類の本にも親しむことのできる図書室の環境整備を行う。 ・図書委員会を中心に，「読書祭り」や「家庭読書」等，休み時間や家庭でも読書に親しむことができるような機会を設定する。 ・子ども新聞やそれに関連した情報を掲示することで，社会情勢に触れ，新聞に親しむ機会を設定する。	・年間図書利用計画表を回覧し、授業での図書の活用を呼びかけることができている。 ・貸出冊数については、小松市の平均以上を目指し、１人あたり１２冊と設定したが、学年によって読める冊数が異なるため、低中高で設定冊数を変えても良い。多読者を放送で発表するこで、来館者や貸出冊数の増加につなげることができた。 ・様々な本に親しめるように、本の整理やくじ引き、新聞の掲示等の工夫を、司書を中心として行っている。 ・赤白対抗読書運動会等のイベントも企画している。	
キャリア教育	＜学校行事，学習活動と関連したキャリア教育の推進＞ ・学校行事，総合的な学習の時間，生活科，特別活動等を軸として年間計画に沿って実施する。 ・行事や取組について，個々にめあてをもたせ，活動後にめあてに対する振り返りを行い，次に生かすことができるようにする。児童の振り返りを掲示したり放送で広めたりし、互いのがんばりやよさを認め合えるような手立てをとる。 ・体験活動や探究的な学習を計画的に実施し，さらに深める。	・キャリア教育に関する教職員アンケートの肯定的回答は100% 児童の「自分で考え、行動しようとしている」「よりよくなろうと努力している」の肯定的回答もいずれも96%以上であった。各行事や日々の授業でめあてをもって取り組み、ふりかえって次につなげるPDCAサイクルが定着してきている。 ・今後も、行事のめあてやふりかえりを掲示したり放送で広めたりしながら、全校で共有し、児童に達成感を持たせながら活動していきたい。	
保健健康教育	＜自ら考え、健康で安全な行動をとろうとする態度の育成＞ ・子どもたちの実態を踏まえた内容を学校保健員会のテーマに設定し、児童自身が自分の健康について考え、改善していけるように活動を進めていく。 ・委員会活動で（学校の実態を踏まえ）、児童主体で必要な活動を提案し、実施していく。	・育友会と連携・協力して、子どもたちの実態と保護者の要望をもとに、睡眠と健康な体作りをテーマに決め、準備を進めている。 ・児童主体で、給食の残量調査や暑さ対策、廊下歩行の取り組みを委員会で提案し、全校に呼びかける取り組みを行った。	
情報教育	＜児童・教師がICTを活用する力の育成＞ ・自ら学習計画を立てたり振り返ったりする場面，互いの考えを交流したりする場面でICTを使うことを日常にするとともに，デジタル教科書等を使用し，思考ツールとしてICTを活用する経験を積み重ねる。 ・研究と連携し，教師のICT活用指導能力を高める。 ・目標指数KPIの指数をすべてクリアできるようにする。	・ICTの活用に関するアンケート項目では、肯定的回答が職員100%、児童94%で非常に高い結果となった。授業や児童会活動等で日常的にICTを活用できていることがわかる。 ・今年度導入となったデジタル教科書や、Canva等のアプリ、AIの利活用について学ぶ機会を多くもち、授業・業務改善等に生かしている。また、ドリルプラネットやまなびボックス等のデジタル教材を採択し、児童が自ら学びの確かめを行うことのできる環境を整えている。 ・児童も職員も、様々なツールを活用場面に応じて使い分けができるよう、２学期からも実践を積み重ねていきたい。	
家庭・地域社会との連携	＜家庭・地域とともに進める学校づくり＞ ・「子どもが主役の学校」づくりに向け，保護者と情報共有・連携を密にしながら取組を進めていく。 ・地域の健全育成組織やボランティアと連携しながら，子どもの主体的な学習・活動に生かす。	・児童アンケートや教職員アンケートでは、「子どもが主役の学校」づくりに向け学級や校務分掌などの取り組みを工夫したでは１００％の職員が肯定的回答をした。 ・どの学年も地域ボランティアの方々と連携をした授業（生活・社会・総合）も多く行われた。そして、児童の活動もお便り、ホームページ・報道などで発信することができた。 ・２学期も家庭・地域とともに進める学校づくりを進めていきたい。	

学校関係者評価	1学期保護者アンケートより 成果・・「お子さんは自分で考え、行動しようとしている」「お子さんはより良くなろうと努力したりめあてを持って取り組んだりしている」がいずれも過去３年間で最も高い91.4%評価を頂いた。本校では、「子どもが主役の学校づくり」をかかげ、児童会活動での主体的な呼びかけや授業におけるICTを活用した自律的な学び「自ら求め自己決定し、自己調整する能力の育成」に力を入れてきた成果だといえる。 課題・・「家庭で自ら進んであいさつをしているの項目が3年間で最も低い74.3%（前々年度79.5% 前年度78.1% ）だった 。学校では児童会が中心となって主体的により意欲的な挨拶運動の取り組みを行ってくれているので、家庭での取り組みも進めていきたい。